

森づくりサポーターニュース

平成30年(2018年) 9月15日号

びわこ地球市民の森(森づくりセンター)

〒524-0102 守山市水保町2727 TEL 077-585-6333 FAX 077-585-6312
メールアドレス biwako@moridukuri.info URL <http://www.moridukuri.info>

秋から初冬(10~12月)の森(2) ~四季の森の魅力~

この夏は、35℃以上の猛暑日が幾日も続きました。われわれ人間を含む動物はまだ、少しでも涼しい木陰や、冷房の効いた場所に移動できますが、公園の植物たちは大変でした。サクラ類などの落葉樹は葉からの蒸散を防ぐ自主防衛作用が働き、季節外れの葉っぱを落とす木もあり、耐え切れずに枯れてしまった木もありました。

これから公園も秋から初冬に向かっていくわけですが、センター内では今年のスダジイやクヌギなどのドングリが豊作のうえ熟すのが早そうとか、クラフトでテントウムシやカブトムシ制作に使うヤブツバキの実が大きくなり早く採ったほうが良いとか言っていました。予定表は、10、11月にバスでドングリ拾いにやって来る、市内外の保育園や幼稚園、小学校の子供たちの予約でいっぱいですが、子供たちを迎える8月上旬のドングリの鈴なり状況を見てください。



スダジイ



コナラ



マテバシイ



クリ



クヌギ

さて、水辺には、ヒレタゴボウ(アカバナ科)(別名アメリカミズキンバイ)が8月から10月頃まで可憐な黄色い花をつけています。別名で分かるとおり北・南米原産の帰化植物で、この森では咲いていても文句は言われていませんが、水田では嫌われ者の一つでしょう。また木本では、ふるさとゾーンでトゲのあるニセアカシア(外来種)が増えています。草本や動物でも、キシウスズメノヒエやオオフサモ、ミシシippiaアカミミガメ、ブルーギルなど、厄介な外来種が増えて困りものです。これも外来種ですが、ウォーター・マッシュルーム(ウチワゼニクサ、外来チドメグサの一種)をご存知ですか。誰かがつどいのゾーンの水路に捨てたものと思われそうですが、どう処分をするか、これから考えなければと思っています。



黄色の花をつけた
ヒレタゴボウ



ウォーター・マッシュルーム

これからのこの森の魅力は、ドングリ類やガマズミ、ウメモドキなどが実を茶や赤に熟れさせ、動物や鳥たちを喜ばせる戦略。ひつつきむしの代表選手であるヌスビトハギやイノコズチ等の種のひつつき戦略。ヒメガマ、ウバユリなどが風で子孫を遠くへ運ぶなど、いろいろな植物の次世代戦略の競演が見られることでしょうか。

「びわこ地球市民の森」に生育する節足動物(昆虫・クモ・多足類) ～「生きもの調査」結果報告～

びわこ地球市民の森では、「生きもの調査」として、平成26年度から水生生物、ほ乳類、鳥類、植物などの調査を実施しており、今回は平成29年度に行った節足動物(昆虫、クモ、多足類)の調査結果を報告します。

1. 調査目的

昆虫類は食物連鎖のなかでも第一消費者に位置づけられ、これらの減少は捕食する多くの動物にも影響を与え、自然のしくみが危惧されるおそれがあることから、現状を把握し生物多様性の保全に資することを目的とする。

確認された代表的なトンボとチョウ

2. 調査場所と時期

森の全ゾーン(5ゾーン)で春(4月)から秋(10月)にかけて実施

3. 調査方法:次の4つの方法で実施

- 任意踏査(捕獲、目視等)
- ラインセンサス(決められたルート进行调查)
- 果物トラップ・ベイトトラップ(食餌誘引法)
- ライトトラップ(光誘引法)

4. 調査結果

昆虫 12目136科429種確認

トンボ、バッタ、カメムシ、チョウ、ハエ、コウチュウ、ハチ類など



クモ 16科70種確認

アシナガグモ、ジョロウグモ
ナガコガネグモ、ハナグモなど



多足類 5目7科7種確認

ゲジ
ムカデ類など



貴重種 9種発見(環境省、滋賀県レッドデータブック掲載種)

マイコアカネ アオイラガ
ミヤマアカネ コガムシ
イナズマキジラミ モンスズメバチ
エノキカイガラキジラミ カトウツケオグモ
コオイムシ



5. 調査結果を踏まえて ～森の環境(水辺・草地・森林)を考える～

●水辺

水陸移行帯や水路内の植物を保全

- ・水域から陸域にかけて傾斜が緩い地形で浅い湿地が多く、トンボ類や水生昆虫類の生息に適している。

水辺の環境

傾斜の緩い水陸移行帯



●草地

時期の異なる草地の刈り払い、刈り残し箇所を設定

- ・高茎草地はチョウ類、バッタ類、ハナグモ、ハエトリグモの貴重な餌場、生息場所となっている。



草地の環境

刈り残された草地(右側)
バッタ類を多く確認

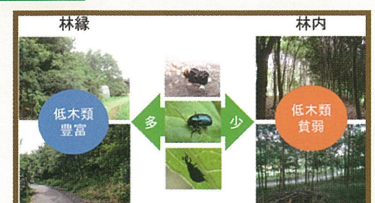
●森林

生物多様性と安全性の双方に配慮した生息場所の確保
(林縁部植物の刈り残し、実生保護、間伐実施による低木類の保全)

- ・森の管理上防犯面で懸念はあるが、林縁部の低木や高茎草本は昆虫、クモ類の生息場所になっている。

森林の環境

林縁と林内の違い



なお、本報告書は、森づくりセンター展示コーナーに設置していますので、自由にご覧ください。

第2回

「森づくりサポーター活動」

連日の猛暑から一転、台風接近で心配された第2回森づくりサポーター活動が、曇り空のもと、平成30年7月28日(土)に開催されました。

当日は、サポーター60名、ガールスカウト18名、計78名の皆さんが参加され、間伐や枝落とし作業、自然教室やクラフトづくりなどの活動を行いました。

間伐・枝落とし作業では、サポーターの皆さんが、里の森ゾーンの平成21年、22年の植栽地で、混み合った樹木や枝の伐採を行いました。時折小雨もありましたが、これまでの暑さが少し和らぐ中、熱心に作業に取り組み、森は明るさを増して緑の木々が一層元気そうにみえました。



開会式の様子



間伐・枝落とし作業

一方、ガールスカウトの皆さんは、「夏の森の楽しみ」と題して、中村實先生の指導のもと、セミナールームにおいて、植物の生き方や増え方、様々な働きなどの特徴を学び、自然の中で生きる植物のパワーや不思議さ、新しい発見などに興味津々でした。また、自然教室のあとは、間伐材の枝やドングリを使ってキーホルダーづくりをしたりスイカ割りをして楽しみました。活動後は参加者全員でスイカを賞味し疲れを癒しました。



植物のお話



キーホルダーづくり



スイカ割り

当日は猛暑も一服、台風も影響なく天候も味方してくれて無事活動を終えることができました。参加していただきました皆さん、どうもありがとうございました。次回のサポーター活動は、平成30年10月14日(日)に予定しています。多くの皆さんのご参加をお待ちしています。

ふれあい池 復活!!

ふれあいゾーンの「ふれあい池」は、土砂の堆積やヨシの繁茂などにより湿地となっていました。

そこで、昨年より、一部土砂をすき取り、水が溜まるようにしました。

この結果、水深は15～20cm程度となり、水生昆虫も見られるようになりました。



また、ヨシ、ヒメガマ、イ、ミクリや希少種であるタコノアシも生えています。



ハナショウブ (6月初旬)



タコノアシの花 (8月上旬)

池～湿地～草原と、さらに森と水路があり、この「びわこ地球市民の森」も生き物の多様性の一翼をになっています。

これからも、生き物観察の場や子供たちの遊び場所になるように手入れをしていきたいと思っています。

お知らせ

第3回森づくりサポーター活動のご案内

秋たけなわの絶好の季節に今年度3回目のサポーター活動を開催します。
皆様のご参加をお待ちしています。

開催期日 2018年10月14日(日)
開催場所 びわこ地球市民の森(つどいゾーン)
活動内容 植栽地の育樹活動と自然教室など



編集後記

記録的な猛暑に見舞われた今年の夏もようやく終わり、いよいよ本格的な秋のシーズンがやってきました。

森は、この夏の暑さにも負けず元気に生長を続けています。

森づくり活動や森の利活用に絶好の季節の到来です。

是非お越しいただき、森の空気を一杯に吸って秋の森を楽しんでください。

森のデータ

森の面積	42.5ha
森の延長	3.2km
森の幅	100～200m
植樹面積	80,808㎡
植樹期間	H13～H25
植樹活動参加者数	44,994人
植樹本数	160,967本
森への利用者数(H29)	176,136人
森づくり活動参加者数(H29)	7,550人
内サポーター活動参加者数(H29)	2,936人